

## プログラム紹介

A コース：オークヴィレッジ / 森林たくみ塾

場所 : 岐阜県高山市清見町

日時 : 2009年10月10日(土) ~ 13日(火)

## ■講座のねらい

- 18 期生：KEEP コースで学んだこと、そしてオークヴィレッジコースで学ぶことを通して、社会に出てからの自分の立ち位置をしっかりとさせる中で、今後自分でもできることを見つけること。
- 19 期生：環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」として「森の手入れを実践する」中で、自分の内面における気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて解決へ進みはじめる」ことを「腑に落とす」こと。

## ■講座中に伝えたいこと

知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。そのために、人の環 = 人を束ねる仕掛け（ネットワーク）づくりが大切。行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。

## ■そのために大切にしたいこと

蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。  
分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じること。  
実践を通して「手応え」を感じること。

## ■プログラム進行表

=====

1日目 10月10日(土) 出会い、再開 ~環を広げる

=====

13:30 受付開始  
15:00 開講式 / オリエンテーション  
15:40 実技「森づくり・導入編」KYTで危険予知～まずは伐ってみよう  
18:00 夕食  
19:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」  
20:00 小講義「日本の森の現状」  
20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」  
21:00 「森人大交流会」

=====

2日目 10月11日(日) 森と私のつながり

=====

07:00 起床  
07:45 目覚めの体操  
08:00 朝食  
09:00 特別講座「環境問題の本質を知る」  
10:00 小講義「ことを持って、ものに当たる」  
10:30 実技「森づくり・実践編」  
12:00 昼食  
13:00 実技「森づくり・実践編～続き」  
14:30 小講義「森と人との付き合い方」  
15:00 実技「森のモノづくり」  
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」  
18:00 夕食  
19:00 TV会議によるKEEPコースとの交流  
20:30 小講義「日本人の自然観」  
21:00 トークセッション

=====

3日目 10月12日(月) 森と私のつながり

=====

07:00 起床  
07:45 目覚めの体操  
08:00 朝食  
09:00 小講義「手をかけて森を育てる」  
10:00 実技「森づくり・総集編」  
12:00 昼食  
13:00 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」  
13:40 18期生送り出し

ここから、19期生のみ

15:00 見学「オークヴィレッジ・ショールーム」  
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」  
18:00 夕食  
19:00 特別講座「NECに見る、CSR活動の最先端」  
20:30 森人大交流会

=====

4日目 10月13日(火) 次につなげるもの

=====

07:00 起床  
07:30 目覚めの体操  
08:00 朝食  
09:00 スライドショー「4日間をふり返って」  
09:30 TV会議によるKEEPコースとの交流  
10:30 実技「ソロ～たった一人でふり返り」  
12:00 昼食  
13:00 全体のふり返り  
14:00 閉講式

## 1 日目 出会い、再開 ～環を広げる

### ■半年ぶりの出会い、そして初顔合わせ

18期生5名と19期生10名が、会場となるオークヒルズに集まった。

いずれも、我々スタッフとは初顔合わせとなる。両コース間の交流を促すため、夏講座でKEEPコースに参加した18期生が、今回の秋講座ではオークヴィレッジコースに合流する。夏講座でどんなことを得てきたのか、秋講座にどんなことを期待しているのかが読めず企画段階では迷いもあったが、結果として18期生たちは非常に良い反応を示してくれた。



### ■開校式

森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「この講座を通して理解してほしいこと。

それは知識を"腑に落とす"まで理解すること、森を感じるために"五感を生かす"こと、実際に行動して"手応えを感じる"こと。それらを"実践"を通して獲得してください。」

### ■実技『森づくり・導入編』 KYT で危険予知～まずは伐って見よう

千円高速による各地の渋滞の影響でずれ込んだ開会式の遅れを取り戻すべく、さっそく森づくりの活動地へ移動。

3年目に入る活動地は、先輩たちが手がけてきた入り口部分が既に手入れを終了している。そこで比較のために、手入れの終了しているエリアを横断して今回の活動エリアとなる森の奥へと向かいます。観察のポイントは、目線でぐるり360度見渡すこと、足元とともに頭上にも目を向けること。しかしながら足場の悪さに、山の斜面を滑り落ちないように歩くだけでも大変そうです。遊園地で遊ぶのとは違い、森の中には危険がいっぱい。"自分の身は自分で守る"が鉄則の森の中では、"危険予知"が必須です。

ようやく今回の活動エリアに到着。ササと藪に覆われて、先へは進めそうにありません。躊躇するまもなく、さっそく森の手入れに入ります。森の手入れについての指示は"安全第一"、そして"手入れが進んでいる森と同じになるように、自由にやってみてください"。事前の説明はしないで、とにかく手入れを行なってもらいました。





### ■グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』

予備知識を何も与えないままに森づくりを行なったので、疑問・質問がたくさんあるでしょう。みんなの中に湧いてきた疑問、質問を A5 用紙にすべて書き出します。

模造紙に内容ごとにグループ化してまとめます。進行係、記録係と役割を分担して進めます。18 期生はまとまりがあるようです。19 期生はお互いに打ち解けていないこともあり、まとめることが捗らないようです。

まとめたものを発表。

ササがあってはいけないのか？どんな木を切るべきか？どんな動物や虫が棲んでいるのか？何のために木を切るのか？良い森とは？"どのように""何をするのか"という技術論だけでなく、"なぜ"という本質論まで出てきました。

18 期生からは「伝え方と伝える中身」、「戯と戦」、「芸術と作業」という言葉で、KEEP コースとオークヴィレッジコースの森へのアプローチの違いをうまく表してくれました。

### ■小講義『日本の森の現状』

森の手入れを進める上での基本情報の提供。

日本の森林率・森林の構成など、意外に知らない森の話。国土の 67% を占める森林を守る林業従事者の高齢化と人数の減少など、森林問題の本質的な部分にフォーカス。

### ■森人大交流会

会場を設定しなおして交流会へと移ります。

各人がご当地名物とともに自己紹介。プロフィール集を片手に、どんな人なんだろう、どんなことをしている人だろうと興味がわきます。

引き続き自由交流会。様々なテーマで話題が盛り上がっています。



## 2日目 森と私のつながり



### ■特別講座「環境問題の本質を知る」

オークヴィレッジ代表・稲本正氏による講座。

地球環境の危機・森林の重要性とともに、暮らしの中に木を使うことの意味が伝わったことと思います。

稲本氏が進めている国産材を用いたアロマオイルの話は、森の手入れが進むビジネスとしても、注目を浴びました。稲本氏より「環境に関心のある学生の知識がこの程度では困る。」  
「一握りの人間が動けば時代は変わる。幕末はわずかに数十人の脱藩武士によって覆された。今の時代を変えるのに、君たちだけでも十分だろう」



### ■小講義「ことを持って、ものに当たる」

昨日の森づくりで出てきた"疑問・質問"に、今日は自分たちで答えを探しながら森づくりを行ないます。

森の手入れを始めると、ともすると箱庭的発想で「自分たちの森」づくりに入ってしまう。森づくりには、森を巨視的に見る目と微視的に見る目の両方を持つ必要があります。森の手入れを始めるに当たって必要な考え方をまとめました。

### ■実技『森づくり・実践編』

18期生・19期生の混成チームで3グループに分かれて作業に入ります。昨日出てきた疑問・質問をよく噛みしめながら、時にはスタッフのアドバイスを聞きながら、各グループで作業を進めます。ずいぶんと手入れが進んできました。





### ■小講義「森と人との付き合い方」

森の木が伐られ、市場でセリに掛けられた丸太が製材され商品になるまでのプロセスを、スライドとともに辿ります。

### ■実技『森のモノづくり』

森は手入れするだけでなく、切った木の活用を探ることも大切。

材料を手に、道具を使ってモノを作る実技として、今回はヒノキの間伐材から箸を作ります。鉋で割ったときの木の表面の手触り。カンナで削ったときの削りくずのにおい。五感でもモノづくりを楽しんでいます。箸を作っているのか、鉋屑を作っているのかわからないくらいですが、しばし箸作りに没頭してしまいました。さっそく夕食から、自分で作った箸を使っての食事です。



### ■TV 会議による KEEP コースとの交流

インターネットによる TV 電話・skype を活用して、KEEP コース参加者たちと交流の場を持ち、簡単な自己紹介を行ないました。同じ思いで集まる仲間が違う場所にもいると感じることで、仲間意識ができたでしょうか。



### ■小講座「日本人の自然観」

私たちが自然を考えるときのベースとしている考え方、自然観。実はそこには西洋的な価値観と東洋的な価値観が混ざり合っている。それを理解しておかないと、時としてどちらの価値観で考えているのかが曖昧になってしまう。自然を客観的に捉える「NATURE」とその訳語としての「自然(しぜん)」、自然と一体となることで自然を理解する「自然(じねん)」。

この講座を聞いて、学生たちも価値観の違う考え方が混在していることで混乱していることを理解しているようだ。



### 3 日目 森と暮らしのつながり

#### ■小講義『手を掛けて森を育てる』

アメリカ・ヨーロッパの森林面積の変化からは、産業革命以降いかに森林資源を食い尽くしてきたのかが読み取れる。一方で日本は豊かな気候ゆえに森林面積に大きな変化が見られない。ネイティブアメリカンや昔の日本の樵たちに、森との付き合い方を学んだ。



#### ■実技『森づくり・総集編』

”森の手入れ～森の利活用”へと講座を進めてきたが、最後に改めて森の手入れを行なうことで、森づくりへの思いを深めた。”わけも分からず伐る” ”いない木を伐る” ”利用するために伐る” ”森を元気にするために伐る”。ステップを踏んで森づくりを行なってきたことで、自分の心の変化と手入れを行なった森の変化が明らかになってきた。11期生が突然訪れるという、うれしいハプニングも。



#### ■小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」

この講座を通して得たものは、知識として蓄えるだけでは意味がありません。行動に移して初めて得たものが生きてきます。事を起こす上で押さえるべきこと、プロとアマチュアの力を結集させることなど、森人としての活動に必要なエッセンス。



#### ■18期生送り出し

一言づつ18期生から言葉をもらった後、18期生が徹夜で作り上げたアルバムを19期生に引き継ぎました。KEEPコースで代々受け継がれてきたものだと思います。

2泊3日の中で、KEEPコースとはまた違った角度で森を味わってくれたことと思います。19期生たちにも刺激になるものをたくさん持っていた18期生の皆さん、ご苦労様でした。





### ■見学『オークヴィレッジ』

「100年育った木で、100年使える家具を」をスローガンにか掲げてモノづくりを行なうオークヴィレッジを訪れ、ショールームを見学した。木目を活かしたモノづくり、適材適所に木を選んで利用する目、長く使うための工法などの説明を受けると、商品を見る目が違ってきた。自分たちが体験したモノづくりとは大きく違うが、「森の木を伐る～木でモノを作る～木のモノを使う」ことが、循環型社会の一翼を担うことが理解できただろうか。



### ■特別講座『NECに見るCSR活動の最前線』

NEC・CSR推進本部より担当の方にお越し頂き、NECのCSRへの取り組み事例を説明していただきました。

"お金が余っているから"、"企業イメージ向上のために"、CSR活動をやっていると考えていた学生が多かったが、そもそもCSR活動とは何なのか、そして持続可能な企業活動のためにはなくてはならない活動と知りました。これから社会の一翼を担う学生たちに有益な情報でした。



### ■森人大交流会

みんなで過ごす最後の夜。NECの担当の方も交え、大交流会が始まりました。「この講座に応募するきっかけ」に始まり、普段友達とも話さない深い話題が尽きませんでした。

NECが田んぼのプロジェクトで社員と一緒に育てたお米で作ったお酒、「愛酔<sup>あいてい</sup>で、笑呼<sup>えこ</sup>=ITでECO」もおいしくいただきました。有難うございました。

## 4日目 次につなげるもの

### ■ スライドショー『4日間をふり返って』

長くも短くもある4日間をしっかりと思い出すために、取りためた記録写真をスライドショーに仕立てて流しました。あんなことも、こんなこともやったね。記憶がよみがえってきます。



### ■ TV 会議による KEEP コースとの交流

この4日間で得たものを一言ずつ、キープコースの参加者に伝えた。別々の場所で過ごしてきた4日間だが、同じ目標に向かっていることを噛みしめているようだ。



### ■ 実技『ソロ～たった一人でふり返り』

この講座の締めくくりは、4日間をたった一人でふり返ること。駆け足でめぐった4日間を、やって終わりとせずに次のステップへつなげることが重要です。そのために自分との対話を大切にしながらふり返ることで、本当に自分がやりたかったこと、今度の課題・目標を見つけていきます。

### ■ 全体のふり返り

午前中に一人でふり返ったことを、みんなで共有する場です。「やってみないとわからない」「人と意見を交わすことの大切さ」「居心地のよい殻の中で、ぬくぬくとしている自分を発見した」など、この講座を通じて感じ取った、たくさんの言葉が溢れていました。



### ■ 閉校式

この講座は、単に森づくりの技術や知識を学ぶものではありません。森づくり～モノづくりまで森や木に関わる実践を通じて、森で学び森に学びます。仲間と交流し、気づき・発見を得、知識を腑に落とすことの大切さを学んでいく講座です。修了生の皆さんが、この講座で得たたくさんの学びを活かして活躍することを期待しています。

## Aコース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生(19期生)の感想です。

文章の一部を抜粋、加筆をしています。

私が今回獲得したものは、「見た目ではわからないことだらけ」ということです。森に入って近くで木を見て、実際に木を切って分かったのは、本当に多種多様な植物で森が成り立っていること。そして年輪からわかる成長の跡と成長には年月がかかるという事実。自分の目で見て体で体験して理解することの大切さ、そして目標を持った上で、規模が小さくても続けていくことが大切だということを学びました。

このことを環境問題を考えるのに生かすには、意識して日常生活を過ごすことだと思います。それにはスケールの大きな森で汗をかいて作業をし、伐った材料でモノづくりをして、楽しかったことを人に伝えることが反応も効果も大きいと思います。ここでつながりができた仲間と環を広げながら、自分が身近な人に自然の楽しさを伝える人になります。

今、この文を書いているが、一匹のハチがペン先に止まっていて、私のことを見えています。「誰？」という顔をしてしばらく見つめられました。チョウチョウも寄ってきました。だんだん虫や鳥の声が確かに聞こえてきます。

この講座は確かに「環境と森林」がキーワードでしたが、私はそれ以上に、生きること・楽しむことをうんと学びました。木を切るにしても作品を作るにしても、手入れの仕方を仲間と話し合うにしても、それはすべてに通じていて、一番大切なこと、「生」の根本なのだと思います。その根本がなかったら、森や自然とも、まずは通じ合えないと。森は自分、自分は森。森は厳しくて優しい。でもいつも自分に正直でいよ。だから、木や森・自然と触れ合うと、自分に素直になれるし、自分を開放することができる。

涙が出るくらい森や自然、そして4日間一緒に過ごした仲間に対して、心地良さを感じました。

理屈ではない、数字や資料では分からない「五感」の体験が最上級にできたと思う。環境問題が危機的状況に瀕している今。それなのに何となく大丈夫なような気がして楽観視しがちな今。森林の減少の資料を見るよりテレビのニュースを聞くより、森に足を踏み入れその息遣いを感じる方がずっとずっと生命の偉大さ、失われる悲しみを実感できるのだと思った。

森の手入れの大変さ。しかしやっていくべきこと。やっていきたいこと。その楽しみ。その先の幸福。私は見つけられたと思う。たとえ林業に携わる人間にならないとしても、非常に大切に必須な経験であった。

同時に、尊敬できる人生の先輩たち、良き仲間に出逢えたことにも感謝したい。つながっていけるであろう喜びを噛みしめている。



私がこの講座を通して自分が獲得したものは、日本の森を考えること、そして人とのつながりです。日本は森が豊かなのにそれを生かしていないということを知りました。少人数で森の手入れをすることは意味のないようなことに感じていましたが、それを続けることで森は変えられること、森全体を見ることが大切だと学びました。そして小さな力も集まれば大きな力になる。その人とのつながりの大切さをこの講座で学びました。つながりには、自分の思いを言葉で伝えることが大切だということを知りました。

自然を五感で感じることの心地良さ。普段の生活も五感を使ってすごしていきたいです。自然を体験することで、人とのつながりの大切さを発見することができました。

今、私は気づきました。居心地のいい場所で殻に閉じこもって学生生活を送っていかうとしていた自分に。ここまでいいか、楽しいからいいかとある意味限界をつくっていた自分に。

ここ、オークヴィレッジで過ごした4日間。みんなと学び、考え、感じ、語り、私は自分の内面がとても成長したと思います。学ぶということは受け身ではいけないということ、自分の中でしっかりと考えを持つということ、五感を使って感じるということ、自分の考えをうまく相手に伝えたいという思い、相手の考えをわかりたいと思うこと。どれもこれも、この出逢いがあったからこそのもので、感謝しても感謝しきれません。場所は違いますが、みんなそれぞれ頑張っていると思いながら、私も頑張ります。

自分が獲得したものは、“山”に対するいろいろな考え方です。この講座に地から集まった大学生の意見を聞きました。そこで、自分の山に対する見方が、木材生産・環境保全・調査地に偏っていることに気づきました。山を見る視点としては、環境教育や動物の住処のためになど他にも多くの視点があります。参加者の持っている山に対する思いを聞くことによって自分の狭くなっていた視野を広げることができました。

環境の講義を受け、それぞれのメンバーで山をどうにかしないと、どうしたらいいかという意識が出ました。その中で、自分はどのようにして林学科に入ったのか、何がしたかったのかという初心を思い出すことができました。これから、何ができるのかと考えて行きたいです。

自分の五感を通して感じる。そして人から言われたことに従うのではなく、まず自分の頭で考えてみる。その重要性に改めて気が付いたこと。それが今回の講座を通じて獲得した大きなことだと思う。手入れをしたのはたった少しの森だった。だけどそれが広がり森となる。全体の中の一部だってこと。問題は大きいこともある。だけどそれも小さい問題が広がっていった結果なんだってこと。“身の回りのことから見直していこう”。よく耳にする言葉。だけどそれがはじめて腑に落ちた様に感じた。これが佃先生が最初に言っていたことだったんだ！！

自らもその一部と捉える“自然 = じねん”と、自分に対峙するものとしての“nature = しぜん”。そこを正しく認識することが同じ土俵に立ってともに環境問題に立ち向かっていくことに必要なんだ。いろいろなことに対して自分が持っているような認識、その足元をもう一度見直す機会があったこと、それを作ってもらえたことにただ感謝。これを次に繋げたいな。

人が出来ることの可能性について、自分なりの認識を持つことができたという点が、今回の講座を通して自分が獲得したもっとも大きなものである。これは、今回の講座で得た多くのものに関して根本的な意味合いを持つものであるという点が、最大の理由になります。

森は人のためにあるのではなく、また人も森のためにあるものではありません。”じねん”という言葉の意味は、そのものが自ら然る。これを維持管理するとき、森という自然環境を中心においたときに、森の人となります。自らを含めた森や、周辺環境を視野に入れ、その中で自分は何をするべきか、と考えたときに答えは出てくると感じました。そしてこの考え方や、”しぜん・じねん”の考え方を他者に伝えることも、重要なことのひとつであると考えました。

今回、この講座に参加して獲得したものは多くあります。人との出逢いの大切さや企業の CSR 活動など、得ることができたと思うことは様々ですが、中でも私は学ぶことの大切さを改めて実感し、そして得ることができたと思っています。

最初に森の手入れ作業をしたときなどは、作業方法も明かされないまま自分で考え、作業を進めていった訳ですが、正直最初は無理だと思ってしまうことも多々ありましたが、2日目から徐々に”なぜこうするのか”といった点も理解を深めていくことができ、本当に有意義な毎日でした。そして、物事の考え方についても知ることができました。森を見るというだけでも部分的にではなく、全体的にも見る目が必要です。また、多くの意見、多くの見方に触れられたことも私にとっても大きな収穫となりました。

## プログラム紹介

Bコース : キープ・フォレスターズスクール

場所 : 山梨県北杜市清里

日時 : 2009年10月10日(土) ~ 13日(火)



## ■講座のねらい

- 自分なりの言葉で「環境教育」について人に話せるようになる
- 自分の中の「小さな一歩」を踏み出すきっかけをつかむ
- 全国の仲間とのネットワークを作る
- 自分自身のねらいを達成する

## ■そのために大切にしたいこと

- 体験から学ぶこと
- お互いから学ぶこと
- 楽しみながら学ぶこと

## ■プログラム進行表

=====

第1日目 10月10日(土)                      テーマ: 出会う

=====

14:00 受付開始  
14:30 開講式/オリエンテーション  
15:00 簡単アイスブレイク  
15:20 環境教育の事例紹介(やまねミュージアム)  
16:00 2002年度 NEC 講座生 結婚式セレモニー同席  
17:00 目的の共有化・自己紹介  
18:00 夕食  
19:15 講義: 環境教育概論  
20:00 1日を整理する時間(ログブックの記入)  
20:15 自由交流会

=====

第2日目 10月11日(日)                      テーマ: つなぐ

=====

07:00 環境教育プログラムの体験  
08:00 朝食  
09:15 環境教育プログラムの体験  
10:45 休憩  
11:00 インタープリテーション概論  
12:00 昼食  
13:15 実習&講義 体験学習法概論  
14:45 休憩  
15:00 インタープリテーション実施&相互評価のオリエンテーション  
17:45 TV会議の簡単説明  
18:00 夕食  
19:15 TV会議  
20:00 環境教育プログラムの体験 : ナイトハイク  
21:00 1日を整理する時間

=====  
第3日目 10月12日(月) テーマ:伝える  
=====

08:00 朝食  
09:15 インタープリテーション体験実施&相互評価  
11:15 休憩  
11:30 インタープリテーション体験実施のふりかえりとわかちあい  
12:00 昼食  
13:15 18期生クロージング  
14:15 18期生お見送り  
~~~~~これより19期生のみ~~~~~  
15:30 実習&講義 安全管理  
16:30 休憩  
16:45 講義 企業のCSR活動  
17:40 TV会議準備  
18:00 夕食  
19:15 TV会議の準備続き  
20:35 1日を整理する時間

=====  
第4日目 10月13日(火) テーマ:ふりかえる  
=====

08:00 朝食  
09:30 TV会議  
10:30 休憩  
10:45 補いの講義、質疑応答  
11:15 講座のふりかえりとわかちあい  
12:00 昼食  
13:15 19期生クロージング  
13:45 終了

## 1日目：出会う



### ■開校式/オリエンテーション

久しぶりに顔を合わせた18期生と、新しい出会いをした19期生。まだまだ緊張している雰囲気の中で開校式が始まった。どのメンバーの眼にも講座への期待とやる気が満ちていた。



### ■アイスブレイク

外に出て、ストレッチと自分の出身地を使った簡単なゲームをした。実は出身地が近くだったり、昔に住んでいたことがあったなどと話が盛り上がった。それにより、身体と心が同時にほぐれて、参加者同士の距離もグッと近付くことが出来たようだった。



### ■環境教育の事例紹介(やまねミュージアム)

ヤマネという動物の概要とやまねミュージアムで行なっている研究や環境教育への取り組みの紹介をミュージアム見学をしながら行なった。ヤマネを通して自然の大切さを人に伝えるというやまねミュージアムの環境教育の在り方やヤマネの生態の不思議にみんな真剣に聞き入っていた。



### ■2002年度 NEC 講座生 結婚式セレモニー

この日は偶然にも、以前のNEC 森の人づくり講座を受講していた出会った2人の結婚式が行われていた。思い出の場所となるハリスホールの前でのセレモニーには今回のメンバーも合流して、この喜ばしい出来事を共に祝った。この講座でのつながりがとても深いものであると実感できた時間となった。



### ■目的の共有化・自己紹介

この講座の全体のねらいを確認した後に、一人一人が紙に自分の手形を書き、指の自分のキーワード5つと手のひらにこの講座で得たいものを書きだした。様々な分野から集まったメンバーそれぞれが語るこの講座への熱い思いにみんな興味津々の様子だった。





### ■講義:環境教育概論

この時間は環境教育とはどんなことなのかという事を学ぶ時間となった。グループで話し合い、環境問題や環境教育にはどんなものがあるかを挙げた。そして環境問題を解決するための環境教育には様々なアプローチ方法があることが分かった。環境教育について考える第1歩となることができたようだった。

## 2日目:つなぐ



### ■環境教育プログラムの体験

朝のガイドウォークで2日目の朝は始まった。朝の森の音を聞いたり、葉の匂いを嗅いだり、木の実を食べたり、雄大な富士山の景色を見たりと五感をいっぱいに使って清里の朝の森を堪能することができたようだった。



### ■環境教育プログラムの体験

森の中に入り、色あわせで日本の伝統色を落ち葉や木の実から探してみたり、森にあるものを使ってそれぞれがピカソになり、作品をつくった。森から感じるインスピレーションを形にしたみんなの作品はどれも素晴らしいものだった。同じものを見ても感じることは異なるということを感じることでできる時間となった。



### ■インタープリテーション概論

この時間は、インタープリテーションの基本的な考え方を学んだ。これまでの講座のプログラムを例に挙げることで、インタープリテーションにも様々な形があることが理解することができたようだった。また、インタープリターが伝えたいことなどを聞くことにより、自分の中のインタープリター像が出来上がっていく様子だった。



### ■実習 & 講義 体験学習法概論

笹の葉のチケットを持って、向かったのは森の映画館。森に寝転がり、普段とは異なる姿勢で森に溶け込んでいくことで、それぞれの心の中には色々な気持ちや視点が生まれた。講義の前に実際に自身がひとつの体験したことで、体験することで気づくことはたくさんあるということに実感を持つことができたようだった。



### ■ インタープリテーション実施

#### & 相互評価のオリエンテーション

今までの講義やプログラム体験を参考にしながら、いくつかのグループに分かれて、伝えたいことのテーマを決めて、翌日のインタープリテーション実施に向けて準備に取り掛かった。スタッフと相談をしながら、各グループの方向性が決まっていた。



### ■ TV 会議

オークヴィレッジのメンバーとお互いの顔見せを行った。清里のメンバーは18期生から順番に自分のキャッチフレーズとともに自己紹介をした。清里とは環境の異なる場所のメンバーとつながることが出来て、また違う視点を得ることができたようだった。また、TV会議自体を楽しんでいた。

### ■ 環境教育プログラムの体験 : ナイトハイク

みんなが楽しみにしていたナイトハイク。明かりをつけずに、森の中に入っていくことでいつもよりも全身の感覚が研ぎ澄まされているようだった。森の中ではフクロウとトンビの羽音の違いを体験したりした。その後に草原に寝転んで、満点の星空を一人で見上げたときは、それぞれの中に様々な気持ちが行きかったようで、自身を見つめ直すきっかけとなったようだった。

## 3 日目: 伝える



### ■ インタープリテーション体験実施&相互評価

前日から準備していた各グループのプログラムの実施となった。どのグループのプログラムも森を存分に活用した楽しく、そしてメッセージ性のあるものに仕上がっていた。緊張はしていたものの企画者側もとても楽しそうで、参加者側もまるで子供のようにプログラムに夢中になっていた。

そして、フィードバックで意見を出し合うことで企画側と参加者側の双方に新しい気づきなどが生まれた。自分達で実際に行ったことで、伝えるということをより明確に捉えることが出来ているようだった。







### ■18期生クロージング

18期生のメンバーから今回の講座で学んだことと19期生へのメッセージを一人一人に語ってもらった。それぞれ感じたことは異なるが、学んだことはたくさんあるようで、自身の糧となったようだった。みんな共通していたのは仲間に出会えた喜びと共に過ごした時間の大切さだった。19期生との別れを惜しみながら旅立っていった。



### ■実習 & 講義 安全管理

この時間はプログラムを運営するときに忘れてはならないのが安全管理について学んだ。ワークシートで危険予知のトレーニングを行い、どんな場面でも危険が隠れていることを知った。そして、情報を共有することが事故を防ぐということも大切なことであると理解した。



### ■講義 企業のCSR活動

本講義を開催する機会を与えてくださった NEC から、大田さんをお迎えして企業のCSR活動についてお話を伺った。NECの創設からの映像を見せて頂いたり、NECの企業理念や実際に行っている活動について説明を頂いた。プレゼンテーションが終わってもNECの活動への興味は尽きることなく幾つもの質問が飛び交った。



### ■TV会議準備

2度目のTV会議で発表する「体験紹介・学んだこと」をどんな形で伝えるかを話し合った。今までの体験したことへの思いを全員が一丸となって表現するために夜遅くまで試行錯誤を繰り返していた。時間がどんなにたってもみんなの顔からやる気が消えることはなかった。

## 4 日目:ふりかえる

### ■TV 会議

オークヴィレッジのメンバーに準備をした発表を行い、自分達を感じた講座の感想を伝えた。みんなは「時間・存在感・一体感」を強く感じていた。オークヴィレッジのメンバーからの質問にも、自信をもってみんなは答えていた。



### ■補いの講義、質疑応答

最後の講義では体験学習法の循環過程やインタープリターに必要な2つのそうぞう力(想像力と創造力)について学んだ。そして、疑問を残さないように質疑応答の時間となった。最後までみんなの一つでも多く吸収しようという気持ちが溢れていた。



### ■講座のふりかえりとわかちあい

始まりから今までをスライドショーでふり返った。その後は好きな場所でひとりになって4日間をふり返り、得られたことなどをまとめた。それをみんなで語り合い、この講座でお互いが思ったことをしっかりと心に刻みつけていた。



### ■19 期生クロージング

最後に一人ひとり、この講座で感じたことを発表した。みんなは自分の言葉で自分の思いや環境教育について話せるようになっていた。みんなの顔は初日よりも凛々しくなっていて、4日間の充実した時間・体験が確実にみんなを成長させたのだと思った。

お互いに再会を約束しながら、新しい思いを胸に秘めながら旅立っていった。





## Bコース: キープ・フォレスターズスクール受講生(18期生)の感想です。

文章の一部を抜粋、加筆をしています。

インタープリテーションとは、森の言葉を人間の言葉へと置き換える作業のことであるが、これを実際に行なうのはなかなか難しい。とりわけそれを感じさせられたのが、「環境教育プログラムの企画・及び体験会」である。まず企画者が森の言葉をきちんと理解できているかということから始まり、こちらの意図を感じ取ってもらいながら参加者に楽しんでもらうプログラムを企画・実行した。森の知識を持っていることが前提で、さらに企画力と実行力が問われる。森が好きだけでは伝わらないものもあるのだと、しみじみと感じさせられた。

森が好きでなければ、この講習と仲間には出会えなかつただろう。そして、この講座と一緒に学んだ仲間がいなければ、この講習会を有意義に過ごし、また誰かに何かを伝えたいなどと思わなかつただろう。こういった部分でも、「森から人へ・人から人へ」次々とつながっていくことに、私自身が感謝している。この気持ちを忘れずに、今後も環境教育に関わっていきたい。

オークでの講座から3カ月。18期生は後期の講座をKEEPでということに、私の中で戸惑いを感じていた。オークでまた、山に入りたかったし、何かを作りたいと思っていた。でもそれ以上に、学んだことを持ち帰った3カ月で何が自分の中で変化していたのかを知りたかった。しかし、KEEPの参加者と過ごす中で、自分の変化、仲間の成長を十分に感じる事ができた。あの場所にいた全ての人が、本気で考え、動き、自分を出すことをしたからこそ、それをしっかりと、自分に、仲間に戻すことができたのだ。

私は現在、教育現場にいて、日々小学生の子どもたちと過ごしている。その中で起こる様々なトラブルを、面倒な事と考えがちだが、学ぶ練習をしているのだ、と感じられるようになった。だからこそ、人との関わり、つながりをクラスの中で十分に体験できるようにしていきたい。私が、子どもが関わる一番近い大人であるからこそ、「大人ってすごい。大人になりたい。」と思わせる窓口になりたい。そして、子どもたちが、そこから見える景色に引きつけられるよう、これからも学び続ける姿勢を持ち続けたい。私を感じ、腑に落とした言葉でなければ、伝えることはできないから。

私は今回の体験を通じて、漠然としていた「環境教育」というもののイメージがより明確に、又その重要性を深く感じる事ができました。これまで環境における教育分野へ対しては、環境問題へ取り組むにあたって別の方法である、規制・ルール作りや技術革新に比べて効果が見えにくいことやその意義について私は懐疑的でありました。しかしそれは極めて重要な事柄に対して、盲目的であったことに他ありませんでした。一日目の講義にありました「根本療法」の言葉がそれをより明確にしてくれました。

今回の講座では「教育の普遍性」を学んだように思います。私が今後直接的に環境教育活動に携われるかどうか定かではありませんが、「環境」というこちらも極めて普遍的な事柄について、いかなる場面であっても教えられる人物でありたいです。環境活動に限らず私の今後において心掛けたい指針の一つを、講座を通じて得ることができました。今回インプットされたものをアウトプットする機会、すなわち「教育」をする場面においてそれは極めて重要な位置付けにおいて私を助けてくれるでしょう。

私は最初、環境教育って興味がありませんでした。環境問題の解決は、一刻も早く効果が出る取り組みじゃなきゃいけないって思い込んでいました。だから私の中で環境教育は、効果が現れるのにめっちゃ時間がかかる遊びみたいなモノだと、軽視していたんです。でも、今回の体験を通じて、“遊び”は、“学び”そのものだ!と、カラダで実感しました。さらに、講義で環境問題を解決する3つの方法を学んで、私が求めがちだった即効性のある対策は規制であり、敬遠していた環境教育は別の分野だと知りました。効果が見えるのが遅いか早いかは重要ではなくて、3つはどれも必要なんとわかりました。そして、最後は、人とのつながりのおかげで次元が広がることを学びました。人は、魅力的な人、楽しい人のまわりに寄ってくると思います。そういう‘カッコイイ発信者’になれば、関心ない人にも環境問題を伝えることができるはずだ、と思えました。全2回の講座だったからこそ、私なりの環境問題を伝えるヒントを得ることができました。

これからは、私の趣味である登山に友人を誘ったり、ブログ上で環境活動の体験を発信して、人の関心をつくっていきたいです。また、もっとも興味のある、人工林の整備活動にボランティアとして参加し、森の再生に直接取り組みたいと考えます。

NEC 森の人づくり講座は、確実に私を成長させてくれました。「自分にも“伝えたいこと”がある」「私にもできることがきっとある」これが、今回キープ・フォレストスターズスクールで学んだことです。キープでは、環境問題を解決するための方法を3つ教わりました。その中で、環境と人をつなぐことが、環境問題を解決することにつながることを改めて認識しました。これまでは“環境教育”の「教育」という言葉の持つ響きが気にかかり、自分の考えを人に押し付けるようなイメージがありました。しかし、キープで受けた環境教育のプログラムには押し付けがましい部分は一切なく、むしろ参加者の内面にあったものを引き出すような印象を受けました。「インタープリターは人と自然、人と人のつなぎ役」という意味を体感できたことが、深い理解につながったのだと思います。

私にとってインタープリターは、一生の仕事として大変魅力のある職業です。森と人をつなぐことで環境問題に貢献できれば素晴らしいと思います。また、今後どのような職業に就くとしても環境問題に携わっていききたいという気持ちは変わりません。自分にできる精一杯のことをしていきたいと思います。

環境教育とは「環境と人間の関係性に気付き、自分で考えて行動できる人を育成する」こと。だから私は、普段の何気ない生活の中にも、「環境教育」との関係性が大いにあるということを身にしみて感じる。いうまでもなく、「森の人づくり講座」がそのことを感じさせてくれた、この経験が、「私が環境教育活動にどのような形でかわっていくか」教えられ、考えるきっかけになった。本講座の中では、多くの「絆を深めあう時間」というものが存在し、「森の中で遊び、学ぶ」時間が詰まっていた。仲間と創りあげた時間は、可能性に満ち溢れていた。本講座では、今まで何も知らなかったのに、自然と打ち解けていった仲間と森に入り、「人間」と「環境」を自分なりに考えることができた。この講座はまさに「森林を活用し、人が生き生きと過ごすことができる素晴らしい場」であった。私はこの事をもっと多くの人に知ってほしいと心から思う。

私は「森林の活用」と「人の絆を深める」場を考え、繋いでいく形で環境教育活動に携わっていききたいと考えている。森林と人がその素晴らしさに気付き合い、ともに支えていけるような形を創っていききたい。そのためには、地域の生活の場に密着したアプローチでこの形をつくりたい。「森林を活用した地域活性化」。これこそが私のやるべきことであり、実現のために関わっていききたい。

## Bコース: キープ・フォレスターズスクール受講生(19期生)の感想です。

文章の一部を抜粋、加筆をしています。

この講座を通して、「感じた事を言葉で表現する大切さ」に気がつきました。そして、表現するために自分が感じた事をじっくりと考えて整理するよう強く意識するようになりました。清里で出会った人、自然。それらからもらった刺激に対して感じた事を考えて整理し、言葉として出す。講座中に始めたその作業は、講座を終えた今でも続けています。この作業は地味ですが、続けていくうちに自分の中にあったぼんやりとしたイメージがつながり始め、どのような視点から「環境と人」について考えていたのか、どこが分かっていなくて不安だったのかが少しずつ見えてきた気がします。そして視界がよくなるにつれて、今まで自信が持てず聞くだけに留まったり、行き当たりばったりな意見を言ったりしかできなかった「環境」に対して真剣に話し合うような場でも、よく考えて意見を言うという事が少しずつできるようになりました。

今回の講座で得た、感じたことを考え整理して言葉にするという姿勢を忘れずに、まずは自分が「人と自然」に対してどのような捉え方をしているのかを他者に伝えられるよう心がけ、そして自分色の環境教育活動の実践ができるよう、これからも前進していきたいです。

インタープリテーションの講座では、「伝え方」「素材」「ねらい」を柱に自分が森を伝える役となりました。終わったあとのみんなの嬉しそうな顔・わかった！そっか！の気づきがとても嬉しく思いました。「環境教育」ときくと、なんだか難しく、固いイメージがありますが、実はそうではなく、このように楽しさから森が好きになり、森を大切にしようという心が生まれ、ゴミを減らしたり、廃棄汚染について考えてみたりなど、環境について考えようという思いが少しでも生まれれば成功なのだと思います。

私はこの先、教師を目指しています。今まで、教師の仕事と森という環境を引き離して考えてきましたが、関連性をつけて考えられる可能性をみつけた気がします。自分なりに、自然と関わることの大切さや環境について一緒に考えて行ける教師になりたいと考えています。今回の4日間で学んだことは、私に「森を感じるための土台」を作ってくれました。この土台を大切に今後も環境教育活動に関わっていきたいと考えています。

清里で様々なアクティビティ体験していく中で、私の中でまだ種だった環境に対する想いは、確実に芽吹いて蕾にまで成長していったと思います。環境を想いながらも普段から自然の中にいるような生活・活動をしていない私は、清里に入り「本物の自然を感じている」という感動から始まりました。それらを、息をひそめてみると、「ああ、私も地球の一部なんだ」と実感することができました。また、感動を通しながら次に思ったのは、「この感動がみんなに伝わればいい」ということでした。この講座で初めて耳にしたインタープリテーションという言葉は、この思いの先を示していてくれたようでした。解釈し、翻訳する。人と自然をつなぐ役、人と人のつなぎ役。そして、誰もが普段着のインタープリターとなれること。今回の講座の中では、参加したみんなが普段着のインタープリターになっていたのではないかと思います。

本物の自然に感動するところから始まった私の中の種は、新しく出会った普段着のインタープリターたちみんなの想いに育てられ蕾になりました。私も、これから出会う人々みんなのインタープリターという花になるために、自ら行動して体験し、解釈し、伝え、気づきを与えられるような人になって行きたいと思います。

今回の講座の中で、一番印象に残っているのは、「出会い」です。今まで出会ったことのない人たちとの出会い。今まで知らなかった側面を持った自然との出会い。とても素晴らしいと思いました。私たち人間は「地球にあるものすべてが私たちのもの」という考えになりがちだが、私たちは地球に住まわせてもらっていて、動物や植物たちが生きて存在しているからこそ人間が生きている、ということを忘れていた。人間本位だ。また、清里の夜は真っ暗で、果てしなく遠い宇宙には、星がたくさん存在しているということを思い出させてくれました。都会の夜空は、夕方のように赤紫で、星など見られない。都会に帰ってきて一番悲しかったことは、真っ暗な夜がないことです。このプログラムから、私は、環境教育として、「自然におじゃまさせてもらう」という考え方を、より多くの人に伝えていきたい、と思いました。

まずは、身近なところから、環境教育をしていき、いつかは多くの人たちに環境教育を出来るような自分になりたい、とおもいました。

「今」、「ここでしか学ぶことのできない体験」が、KEEPにあふれていた。ふり返ると、何よりもこの事を強く実感している自分がある。講義とはに始まり、環境教育、インタープリテーション、企業の環境に対する社会的責任の成果を知った。それは、机上だけでない、体験することもあった。森で朝露の中をハイキングしたり、紅葉する葉を素材に、お気に入りの一枚や色あわせ、作品作りもした。思いがけない森の映画館への招待。夜、はやる気持ちを抑えながら行ったナイトハイク。参加者の立場から、伝える側になるインタープリテーション実習。教えてもらう事ばかりではない、一つ一つ意味を持った活動、どれかが欠けてもこの思いにはいたることができなかっただろう。「あっちの道で頑張っている人がいるから、自分は自分のこの道で頑張る。」これから、私は、公立小学校の教員として子どもたちと共に学ぶ道へ進む。講座へ参加したそれぞれがそれぞれの方法で環境教育活動にかかわってゆくだろう。私は、将来出会う子どもたちに今日の学びを私から、子どもたちへ受け継ぐ「教育」というストレートな形でかかわっていきたい。

今回の講座で私は、とても短期間の出来事とは思えないほど、様々な経験を積むことができました。それはまさに私の人生観を変えるほどの、刺激的で、充実した4日間でした。プログラムを通し、五感を最大限に活用しながら、自然に対して正面から向き合い、また新たな目線を通して景色を眺めることで、改めて自然の持つ雄大さや、美しさを体感することができ、私の当初の目論見は十分に達成することができました。しかしながら本講座では、むしろ別に得られた物事の方が多かったのではないかと思います。

”インタープリターとは、人と自然とをつなぎ、また人と人とをつなぐ”。この話は特に印象に残っているフレーズです。そしてまた、講座を通して、この言葉の真意を理解できました。本講座は僅か4日間の日程でしたが、私は人生の中でも3本の指に入るであろう、濃密な時間を送ることができました。そう思えるのは、前述したような野外での経験に加え、同期の受講生達と共有した時間によるところが大きいと思います。個々人の持つ多様なものの見方や考え方、価値観などは、長い付き合いを通して徐々に理解をしていくものであり、それでも完全にその意識を共有することは困難です。ところが清里では、私を含め、会って間もないひととひと同士が、自分を飾ることなく振る舞い、意見を主張していました。これほど他者の持つ感性に触れ、さらに感銘を受けることができた事は、私をさらに成長させてくれたと思います。

本講座で学んだ事を、職場でフルに生かすことはなかなか難しいことかと思えます。しかし、本講座の『人と人とのつながり』を通して得た、他者の持つ気持ちへの感受性を常に持ち続け、生かしていきたいと思えます。



今回の講座で環境問題とはどういうことなのか、また、伝えるにはどうすればいいのか、ということを経験して学んだ。こんな風に風の音を聞き、木の葉が舞うのを眺めたことが今までの経験としてあったらどうか。蟻や蜘蛛がいれば驚いて殺虫剤をかけるが、虫がいなくなれば世界はどうなるのだろうと考えたことがあったらどうか。それは同時に自然を知らないのに、環境問題を語っていたという思いに駆られた。「学び、気づく場を作ること」が環境教育の柱であることを学んだ。自然へのアプローチの方法は様々であり、私だから気がついたこともある。

ここで得たものは私のフィールドに持ち帰り、役立てたいと思う。心地よい空間とは何かを問いかけてつづけることであり、自然の美しさを伝えるということでもある。プログラムを組んだりすることは数多くチャンスがあるわけではないと思う。しかし、「学び、気づく場を作ること」という軸を持ち、自らも学び続けていきたいと思う。例えば、講座で体験した話を交えながら自然の良さを語ってもいいだろう。自然の魅力を伝え、興味を持ってもらうことから始めたいと思う。

今回の講座での最も大きな学びは、多くの仲間、多くの出来事、多くの自然に出会えたことだと思います。自分の悪い部分を発見したり、皆で意見の相違があったり。けれど、それが学びへと結びついたのは、互いに認め、尊重しようという気持ちを皆で共有できていたからだと思います。良い出来事、悪い出来事への遭遇から、仲間同士のつながりへと発展し、そのつながりを得ることができた清里の自然とも深くつながり、特別な場所、特別な時間が生まれたのだと思います。僕らの生きているこの場所、自然、環境は、とても多くを与えてくれているのだと、はっきりと気づくと同時に、僕の体験や感じたこと、僕が今、自然や人に対してどのような愛着を持っているのか、何も知らない人に伝えるのはとても難しいことだと思いました。

僕が常に、人を認め、尊重することができれば、必ず相手に気持ちが伝わると、そのような確信がこの講座で得られたと思います。僕らを取り巻くあらゆる環境が、どれだけ素晴らしいものに満ちているのか、それに気づいて、お互いに成長してゆくのが、環境教育への小さな一歩だと思います。

私は「環境教育」という言葉が苦手だ。上から目線な感じだし、環境を「教える」のは無理やりな気がする。植樹とかごみ分別とか、本当に環境を考えることにつながっているのか疑問だし。その感覚はあまり変わっていないけど、この講座を終えてみて言葉にこだわるのはいいやと思った。肝心なのは「感化する」ことだと思う。山や海で遊ぶこと、生き物の不思議、環境問題の複雑さ・難しさ…。これは知識ではなく感じるもので、それは私自身がおもしろがって真剣に取り組むことで人に伝わるんだと思う。環境教育って自然教育と何が違うんだろう、私がひとりふり返りをしたときに最初に考えたこと。結論としては、環境ってというのは「自然×人間×時間」で、環境教育ってというのは「今、ここ」と地球とか世界とか過去未来とのつながり、関わりを考えてもらうこと、そのツールを用意すること。ツールの中で忘れちゃいけないのは、考えるための時間とアウトプットの場だと思う。だから落ち葉遊びやごみ分別をさせるだけでなく、一緒に動きながらのコミュニケーションが大切なんじゃないか。「環境」に決まった境や答えはない。その「環境」を想像する力を、もっと多くの子供や大人に持ってほしい。

都会で「エコ」活動をしている人も、私自身も、まだまだ見方を広げることができるはず。私はそんな「新しい視点」や「考えるきっかけ」を提供できる人間(=インタープリター)になりたい。

私はこれまでまがりなりにも環境について勉強してきたので、自分のなかで一応の環境教育のイメージというものをもっていました。それは環境教育の中心は自然教育だということです。しかしながら、これには私たち自身、つまり人の関わり合いについて考えることが抜けていました。私は今回の講座を受けて、単に自然(環境)について教える(自然の魅力を伝える、環境問題について解説する)だけでなく、自身の生活、または人と自然のき合い方まで考えることができるようにフォローしていくことまでが環境教育である、ということ学びました。私は今回の講座を受けて、単に自然(環境)について教える(自然の魅力を伝える、環境問題について解説する)だけでなく、自身の生活、または人と自然のき合い方まで考えることができるようにフォローしていくことまでが環境教育である、ということ学びました。

来年度から私は大学の運営に携わっていくこととなります。これまでの私は環境活動や自然活動に参加する学生が増えたらいいな、と単純に考えていて、そのサポートをしようと思っていました。でも今は、社会にでたときに人の生活と環境について考えたうえで行動選択できる学生が増えたらいいな、と考えています。そういった意味で、私は学生に対して、何か自分と自然との関係に気づきを与えることができるような活動をしていきたいです。